



山林經濟論

973



114  
A 3835



山林經濟論

ハウズホッヘン 名地技術大學校經濟政表兩學教師博士  
 ニシテ人力費用ノ夥多ナラサルモノナリ其最  
 モ務ムヘキハ其風土ヲ察シ是ニ適セル樹木ヲ  
 栽培スルヲ主トス今茲ニ山林ノ事ヲ知ラント  
 欲セハ其國ノ大小ニ比シテ山林ノ多少ヲ視察  
 シ人民ノ衆寡ヲ算シ之ニ稱フノ樹木ヲ栽ル  
 一大眼目ナリ然シテ通例人民稠密ノ地ニ樹林  
 ノ多キヲ希ナリ人民漸ク増加シ農事ノ進ムニ

大正十一年四月  
大隈侯爵郵寄贈

從ヒ肥地、平地、海岸等ノ如キ之ヲ斬伐シテ運輸  
スルニ便宜ナルノ地ハ先ツ之ヲ斬取シ田圃牧  
野トシ或ハ其制ヲ誤リテ荒瘠セシメ地面ノ景  
ヲ異ニシ唯山陰瘠地ノ如キ五穀ヲ生セサル地  
ノミ樹林ヲ存スルニ至ルヲ常ナリ樹木ノ性々  
ル草類ト同シカラス成長徐々ニシ其用ヲ爲ス  
ヲ遲シ故ニ樹林ノ制一旦宜ヲ失フキハ之ヲ恢  
復スル多年ヲ經サレハ能ハス故ニ預メ之ヲ未  
來ニ防ガザル可カラス其制度ノ宜シキヲ得ン  
ト欲スル如何シテ可ナラン必ス國民ノ用ニ過

不及ナク永ク用井テ空盡ノ憂ナカラシムルニ  
アリ然シテ國民ノ用ニ稱フ山林ヲ設クルニハ  
毎一人一ケ年ニ幾許ヲ要スルヲ視ルニ在リテ  
之ヲ視ルヲ甚タ難シ方今實行者モ理論家モ尙  
通算ヲ立ル能ハサルハ之ヲ用ルノ各地各風有  
ルニ因ルナリ故ニ此算ヲ立ル其地ニ從ヒテ各  
差異アリ其各風アルトハ第一ハ建築ニ材木ヲ  
用ウルノ多寡舟車器具ヲ製スルノ多少第二ハ  
工匠彫刻ノ用ニ供スル材ノ産不産地方寒暖ノ  
長短ニ因テ薪材ヲ費スノ多寡又之ヲ用ウル製

造所等ノ多少薪材代用品ノ有無等ニ關シテ用  
ルコト同シカラス昔時ハ樹木ヲ伐ル一モルゲン  
二千二百フノ地ヨリ三十クビーキフース凡  
立チ取ルヲ通規トシ人民一頭ニ一モルゲンノ  
山林ヲ持ダサレハ材木ニ缺乏困窮スヘシト云  
ヘリ然レモ薪材代用品有ルノ地ハ此例ニ非サ  
ル論ヲ待タス各國山林ヲ區分シテ體ヲ爲スモ  
ノ四アリ第一官有林第二縣邑林第三寺社林第  
四私有林ナリ而シテ此區分ヲ立ルノ得失大ニ  
國家ノ經濟ニ關係ス務メテ其宜ヲ失ハサルヘ

シ當今諸國山林ノ一二ヲ例センニバイエルン  
ノ山林ハ全地百分ノ三二、四アリ此三二、四ノ山  
林ヲ百ノ全數トシ官有林三四、縣邑林一六、私有  
林五〇、ナリウヰツテンベルグノ山林ハ全地ノ二  
七、二アリ之ヲ百ノ全數トシ官有林三一、六縣邑  
林七八私有林三〇、四アリグルヘツセン全地ノ三  
六、八ノ林ヲ百トシ官有林三一、六縣邑林三八、九  
私有林二九、三アリ佛國ノ山林ハ全地ノ一六、二  
之ヲ百トシ官有林一三八縣邑林二一二私有林  
六五ナリバーデンノ山林ハ全地ノ三三、四アリ

之ヲ百ノ全數トシ官有林一七、二縣有林五〇、七  
 私有林三二、一ナリ「白義」ノ山林ハ全地ノ一九、四  
 アリ之ヲ百トシ官有林七、一縣邑林二七、四私有  
 林六五、五アリ凡ソ樹林制ノ正シク行ハル、之  
 ナ小分シテ衆民ニ配賦スルニ失ヒ官有林縣邑  
 林等ノ廣大ナルモノ多キニ得テ山林保續ヲ圖  
 ルニ利アリ且ツ樹林ヲ設クル其風土ノ異ルニ  
 從テ同シキヲ得ス各地ノ濶葉樹ノカシハニテ  
 モテ又萌生スル或ハ狹葉樹切松等ノ如キ樹ハ  
 者ヲ或ハ喬林ト成育ツル極マテ切フル中林ノ成  
 極長

マテ育ル樹ノ間ニ屢切リ矮林數年切リテ又  
 萌生スル樹ノ多ク同シカラザルハ此故ナ  
 アル山林ノ益ヲ國家ノ爲メニ圖ルキハ喬林ノ樹  
 リ山林ノ益ヲ國家ノ爲メニ圖ルキハ喬林ノ樹  
 齡ヲ極メシムルニアリ然リト雖モ若シ私有林  
 多キキハ皆已レカ爲メニ利ヲ得ルノ速カナラ  
 シンヲ欲スルヲ以テ多クハ濶葉樹ヲ植テ屢之  
 ナ伐リ喬林ヲシテ漸々減少スルニ至ラシム又  
 之ニ反シテ官有林ノ多キ地ハ喬林立テ能ク保  
 持スルモノトス譬ハ獨逸連邦ノ如キモ各同シ  
 カラスヘツセン及ヒホムブルグノ喬林ハ百ノ

二十一サクシヨンニハ九十五クルヘッセン及ヒフ  
 ランブルトニハ九十七アリ以テ其國ノ山林制  
 度如何ヲ視ルヘシ山林ヨリ生産スル者ノ多少  
 ト樹木成長ノ強弱迅速ハ風土ノ善惡制林ノ得  
 失人民開化ノ等級樹林保持ノ巧拙費用ノ多寡  
 ニ關スルモノナリ譬ハ一ヘクタール凡四十五  
 方面ノ樹林ヨリ年々舉ル所ノ材バーデンニテ  
 八五八ステレス二十九方ウキツテレベルグニテ  
 ハ五佛國ニテハ八四六瑞西ニテハ三九バイエ  
 ルンニテハ三四普國ニテハ三サクシヨンニテハ

二九澳國ニテハ二七ナリ之ヲ民口ニ當ルルハ  
 バーデンニテハ一、六ウキツテンベルグニテハ  
 一、五澳國ニテハ一、三瑞西ニテハ一、一佛國ハ〇、  
 九サクシヨンハ〇、五ナリ其同シカラサル此ノ如  
 シト云ヘリ又澳國農部省內山林事務局長ホフ  
 ラート、ミクリツツ氏澳國事務局長十一級ニシテ山及  
 ヒ同國マリアブロン地名樹林大學校法律兼經濟  
 學教師博士マルヘット氏曰クハルナ彼獨逸ノ  
 國タル往昔全地殆ント森林ノミナリシカ人民  
 繁殖シ人智發揚スルニ從ヒ漸次開墾シテ或ハ

田圃トシ或ハ牧野トシ方今ニ至リ森林ノ存ス  
ル者ハ僅カニ全地四分ノ一ニ過キサルノミ方  
今若シ往昔ノ如ク一人ノ主宰保護スル者ナク  
一人ノ樹林家出ルナク衆人ヲシテ擅ニ之ヲ斬  
取セシメハ二十年ヲ出スシテ材木空盡ニ至ル  
ヘシト又方今歐洲ノ經濟碩學博士ウヰルヘルム  
ロッセル氏ノ説ニ曰ク一時ノ簡便ヲ以テ官室家  
屋ヲ作ルニ盡ク材木ヲ用井屢々火災ニ罹リ灰  
燼ト爲ス豈思ハサルノ甚シキニ非スヤ唯材木  
ノ用井サル可ラサルハ造船ト鐵道ノ二箇ニ在

ルノミ又曰ク材木ノ價ヒ廉ナルノ地ハ人皆思  
慮ナク之ヲ用ル多キヲ以テ缺乏ヲ致ス下速カ  
ナリ故ニ末タ空乏セサルニ當ツテ預メ之ヲ慮  
ラスンハアルヘカラス樹林ノ制度ヲ立ル文化  
ノ至極ニ非ラサルキハ盡ク之ヲ私有トシ其制  
ノ適度ヲ得ル下難シ如何トナレハ若シ之ヲ小  
分シテ衆庶ニ配與シ各自巳レカ爲メノミヲ圖  
リ之ヲ開墾シテ田圃又ハ牧野ト爲スキハ山林  
減縮シ國家ノ爲メニ災害ヲ生スルアルモ皆私  
利ニ迷ヒ伐テ止ム可カラザルヲ以テ樹林ヲ制

スルハ先ツ之ヲ政府ニ委スルヲ可トス近時君主特權ノ政體漸ク衰へ衆庶天理ニ戻ルノ束縛ヲ脱シ自主自由ノ論大ニ行ハレ眞ニ不羈ノ快ヲ得ルニ當ツテ唯樹林ノ制ノミ其趣ヲ同シクセサルカ如シト雖モ之ヲ政府ニ專制セシムルハ束縛抑壓ノ法ニ非ス衆庶ノ名代タル政府自ラ之ヲ知ルキハ衆庶ノ爲メニ圖ルニ利アルヲ以テナリ然而シテ政府ノ取テ以テ制ス可キノ最タルモノハ所謂保護林ト爲スヘキノ山林ナリ此保護林ヲ定ムルノ方固ヨリ其地勢ト氣候

トニ關セルヲ以テ之カ定則ヲ立ルヲ難シ而シテ其主トシテ之ニ注意スヘキモノハ其山林ノ能ク原泉ヲ漏出シテ以テ樞要ナル江河ニ注致シ勁風ノ西東ヨリスルヲ論セス風ノ勁軟ハ地方ニ向テ異均シク之ヲ支ヘテ以テ田圃ノ害ヲ防キ其他激流ノ邊ニ在テハ毎ニ堤防岸涯ヲ維持シ絶險ノ地ニ在テハ岳石頽雪ノ轉跌ヲ防ク如キ是レナリ故ニ保護林ト爲サ、ルヲ得サルノ山林ハ大抵山巔或ハ山腹ニ在ルナリ山林ニ從事スルモノ能ク此ニ注意シ其適ヲ誤ラサルヲ要



スヘシ此外天下ノ樹林制度ノ均ヲ得ントスル  
私有樹林ノ如キモ政府ノ樹林官ニテ其樹林ヲ  
支配スル者ヲ試験シ法ヲ立テ制ヲ定メハ宜シ  
キヲ得ヘシト當今ノ論說概畧此ノ如シ而メ歐  
州各國ノ今日此樹林制度ノ起ル所ヲ察ルニ彼  
國ト雖<sub>レ</sub>往昔未ダ工業開ケス今日一日モ缺ク  
可カラサル製鐵ヲ以テ材木ヲ用ウルニ勝ルヲ  
知ラス方今未開ノ地ノ如ク宮室舟車器具等舉  
テ材木ニ賴ラサルヲ加ルニ農事牧畜漸ク開  
ケ頻リニ山林ヲ開墾シ樹林ノ減縮ニ過ルヲ知

ラス希臘是班牙佛國等ノ一部之カ爲メニ大害  
ヲ起スヲ視テ初メテ樹林ノ制度無ンハアル可  
カラサルヲ知ルナリ是樹林學ノ起ル所ナリ故  
ニ方今歐洲ニ於テ獨逸ノ如ク此學業ノ備ハル  
所トイヘ<sub>レ</sub>樹林學ノ規則立テテ一大學科ト就  
ルモノハ未ダ百年ヲ出ス就中ハルナク氏コッタ  
氏バイル氏及ヒフンデスハーゲン氏ノ四大家  
出テ此ニ勉勵セル以來天下ノ爲メニ一大動績  
ヲ立テ學術翕然トシテ一新セリ

緒方道平筆記

漢國博覽會事務局

東京新橋竹川街續文社刊行

